

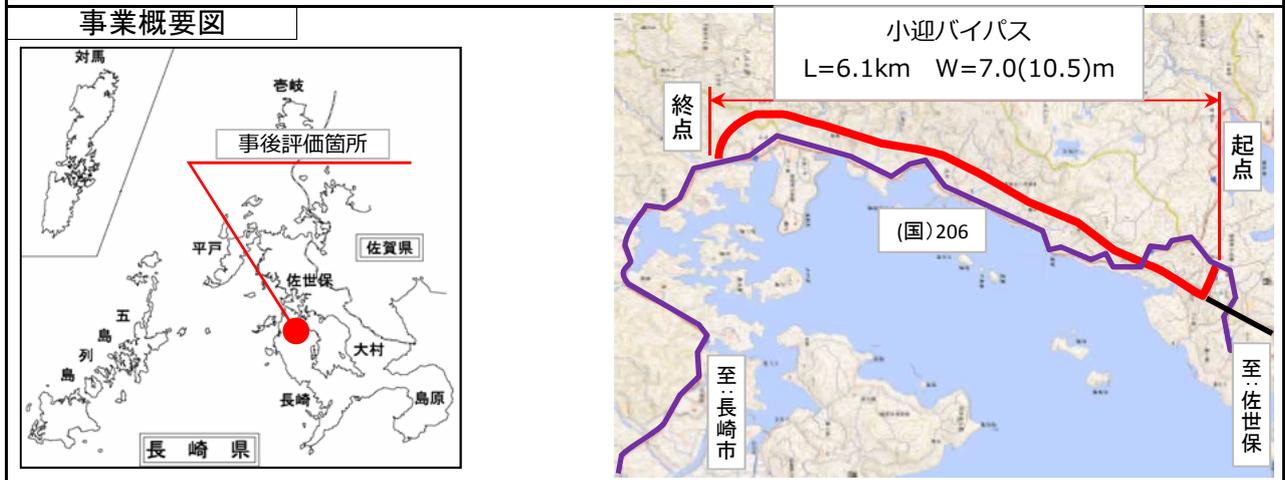
事後評価結果（平成 29 年度）

整理番号	
担当課	長崎県 道路建設課
担当課長名	大塚 正道

事業名	一般国道206号 小迎バイパス	事業区分	一般国道	事業主体	長崎県
起終点	自：長崎県西海市西彼町小迎 至：長崎市西海市西彼町大串	延長	6.1km		

事業概要
 一般国道206号は長崎市を起点として佐世保市に至る路線であり、長崎市と佐世保市を連絡する幹線道路である。当該区間は長崎市と佐世保市を1時間で結ぶ目的で整備を進めている「地域高規格道路西彼道路」の一部となるバイパス区間である。

事業の目的・必要性
 小迎バイパスは、平成17年度に供用済の江上バイパスの南伸区間で、西彼杵道路の一部を構成するとともに、県内2時間交通圏の拡大、西彼杵半島地域と佐世保地域の時間短縮による地域振興、社会経済の活性化を目的としている。



工期	着工	H 13 年度								
	完了	H 24 年度								
事業費	再評価時点(H22)	216 億円								
	最終	209 億円								
B/C	再評価時点(H22)	1.2	総便益(B)	307 億円	総費用(C)	260 億円	基準年度	H 22 年度		
	事後評価時点	1.2	総便益(B)	371 億円	総費用(C)	298 億円	基準年度	H 29 年度		
事業期間	事業化年度	H 13 年度	用地着手	H 13 年度	供用年	(再評価)	H 24	変動	1.0 倍	
	都市計画決定	H 年度	工事着手	H 13 年度	(実績)	H 24				
事業費	再評価時	(名目値)	216 億円	実績	(名目値)	211 億円	変動	1.2 倍		
		(実質値)	243 億円		(実質値)	296 億円				
交通量 (当該路線)	再評価時	12,500 台/日 (H42推計)			実績	12,700 台/日 (H42推計)			変動	1.0 倍
旅行速度向上 (供用前現道→当該路線)		47.0 → 69.1 km/h (供用直前年次) H22 年度 (供用後年次) H27 年度			交通事故減少 (供用前→供用後)		14 件 → 6 件			
費用対効果 分析結果 (再評価)	B/C	1.20		総費用	260 億円	総便益	307 億円	基準年		
				(事業費)	259 億円	(維持管理費)	1 億円	走行時間短縮便益	256 億円	H 22 年
						走行経費減少便益	36 億円			
						交通事故減少便益	15 億円			
事業の 効果等	費用対効果 分析結果 (事後)	B/C	1.24		総費用	298 億円	総便益	371 億円	基準年	
					(事業費)	296 億円	(維持管理費)	2 億円	走行時間短縮便益	345 億円
						走行経費減少便益	19 億円			
						交通事故減少便益	7 億円			
事業遅延によるコスト増				費用増加額		38億円		便益減少額		-64億円

	事業遅延の理由	<p>平成22年度の再評価以降、事業の遅延は無い。</p>
	客観的評価指標に対する事後評価項目	<ul style="list-style-type: none"> ・交通渋滞の解消 小迎交差点における最大渋滞長 L=180m(H24) ⇒ L=30m(H25) ・所要時間の短縮 指方～大串間19分(H23) ⇒ 13分(H25)
	その他評価すべきと判断した項目	<p>特になし</p>
事業による環境変化	環境影響評価に対する項目	<p>環境影響評価については、対象外である。</p>
	その他評価すべきと判断した項目	<p>特になし</p>
	事業を巡る社会経済情勢等の変化	<p>平成17年1月4日に、西彼町・西海町・大島町・崎戸町・大瀬戸町の5町が合併し西海市となり、旧5町の連携を活かした町づくりを進めている。</p>
対応方針	当該事業に係わる対応方針 (今後事後評価の必要性及び改善措置の必要性)	<p>この事業により、交通渋滞の緩和や所要時間の短縮などが図られており、通過交通の転換により地域住民の住居環境も向上するなどの効果もみられることから、今後事後評価及び改善の必要はない。</p>
	同種事業に係わる対応方針 (同種事業の計画・調査のあり方や事業評価手法の見直しの必要性)	<p>今後も走行時間短縮や走行経費、交通事故減少に限らず、企業進出や定住人口の拡大等の効果も、評価に含めていくべきと考える。</p>
	特記事項	<p>特になし</p>